

## 5月8日（月）その15 苦勞を苦勞と思わない、努力を努力と思わない！

GWも終わりましたね。家族サービスで疲れ果てていませんか？自分自身リフレッシュできましたか？今週は、いよいよ所内検討会が始まります。皆さんの4月の「研究成果」を見ることができ、楽しみです。

さて、GW中に上阪徹という人の「新しい童話の読み方」という本を読みました。その中で私の気持ちにじっくりくる言葉を見つけました。

「たくさんの成功者にインタビューして強く感じたことは、結果を出している人はそれなりの準備と努力をしている。努力をするとすべて報われるかというところではないけど、少なくとも努力のない成功はない。本当にすごい才能とは、努力を努力と思わない才能ではないのか。周囲から見れば大変な努力だと思えることを、当人は当たり前だと思ってやっている。だから自然に結果が出てしまう。なぜ苦勞を苦勞と思わない、努力を努力と思わないのか。それはその努力や苦勞が本人には楽しいものになっているからです。」

私はこの10年間、タイプの違う3種類の講話をたくさんやりました。パワーポイントで作った15分間の校長講話を68回。5分間義務課長講話を265回。60～90分の講話もパワーポイントで写真等をふんだんに見せながら30回ほどやり、たくさんの方々に講話を聞いていただきました。講話そのものは誰でもできることです。でも徹底して長い間続けることは、簡単ではありません。私は講話の準備に多くの時間をかけていますが、難儀と思ったことはありません。苦痛と感じたこともありません。そうなんです、私自身が講話作りを楽しんでいるんです。

例えば昨年末の伊平屋村教委から依頼され、伊平屋村の学力向上推進実践発表会での講話作りの話をしましょう。私は伊平屋村に行ったことは一度もなかったのですが、いくつかの公立図書館に一週間くらい通って、伊平屋村のことを調べました。特に「伊平屋村史」を丹念に読みました。旧伊平屋村は、伊平屋島、伊是名島を含む大小7つの島々から成り立っていました。伊平屋島は、琉球国第一尚氏の出身地だということに、歴史の勝者である第二尚氏の誕生した伊是名島が、政治、経済、文化の中心地でした。伊平屋島側の要望で、昭和14年に、旧伊平屋村は伊平屋村と伊是名村に分かれました。

村史には大正時代～昭和の初めに活躍した伊平屋の偉人が何名か紹介されていました。ふと「初めて島に渡ってきた私が、昔の伊平屋島の偉人の写真を見せながらその方々の功績を紹介し讃えたら、島の人達は思うだろう？」と思いました。そう考えると大変ワクワクしました。

また島に自家用車で行き、島を4周していろいろな時間帯の島の美しい風景を写して、多くの写真をスライドショーで見せていただきました。講話の後、島の方々から、「大変感動して、時間があっという間に過ぎました。」「講話の中に出てきたA氏は、私の曾祖父です。」などの言葉をもらいました。

「感動こそが人を動かす原動力になる」と私は思っています。今月3つの70分講話をすることになっています。13日の向陽高校PTA集会、23日の南部地区図書館協議会、28日の南風原町教育の日集会での講話です。聞いて下さる方々を想定して、全く内容の違う3つの講話を作っています。70分の講話だと200～300枚のスライドを準備するのが「AKIRAワールド」です。「感動した！」と言ってもらえるよう、時間をかけて…写真を撮りに行ったり、ネットで検索したりと講話づくりを楽しんでいます。

## 5月9日（火）その16 スロット天国・沖縄 - 貧困と浪費 -

5月3日（水）の新聞に、銀行を除く2016県内企業売上高ランキング（上位100社）が掲載されていた。それによると「沖縄電力」が1位で約1740億円、2位が「サンエー」で1680億円、3位が沖縄徳洲会病院で1130億円、4位が「イオン琉球」、5位が「金秀商事」で、以下「沖縄セルラー電話」、「サンシャイン」、「沖縄ファミリーマート」、「りゅうせき」、「日本トランスオーシャン航空」、「ピータイム」、「國場組」と続く。100社の売上高の合計は2兆945億円で、「県内景気は堅調に推移している」と、書かれていた。

思い出したことがあって、「遊戯場」に注目して調べてみた。100位以内に5社がランクインしていて、売上高の合計は1372億円である。

ちなみにGW直前の新聞の折り込みチラシを調べてみた。遊技場のものが5つもあり、島尻地区一円のお店がそろい踏みだ。

ネットで検索してみたら、沖縄県の遊技場の数は79で、パチンコ台は12,261台で、スロットマシンは18,196台である。パチンコとスロットマシンの設置率は、沖縄県だけが全国で唯一スロットマシンの設置率が高いのだ。

これには理由がある。戦後日本では、スロットマシンはギャンブル機と見なされ禁止されていた。ところがアメリカ軍に占領された沖縄は、治外法権で日本の法律は適用されなかった。スロットマシンはアメリカ軍基地内に持ち込まれ、そのうちに中古品が払い下げられて、県内に広まったといわれている。沖縄が日本におけるスロットマシンの発祥の地なのだ。アメリカ式は、一台一台が独立した「アップライト型」であったが、規制が緩和され導入が認められた日本では、既存のパチンコ店が導入しやすいように、パチンコ台と全く同じ大きさの「パチンコ型スロットマシン」（パチスロ）に改良された。沖縄でも復帰後パチスロに変わっていったが、アメリカ式に慣れているため大きなコインの機種が作られた（今では、「沖スロ」と呼ばれている）。

昨年2月の新報の論壇に比嘉辰雄さんという東京在住の方の投書があった。「国はこの40年、沖縄振興費として10兆円を投じている。しかし沖縄はいまだに全国最下位の貧困県であり、県民所得は204万円である。沖縄県にはパチンコやスロットの遊技場の巨大市場があり、県内の遊技場の総売上は一千億円を超えるようだ。これは沖縄県の民生費（生活保護費などの福祉に当てられる額）とほぼ同じであるという。貧困県でありながら、巨額の金を遊技場で浪費しているのが沖縄県の特徴なのである。「貧困と浪費」の矛盾する県内の実情を、県や県民は見過ごしていないだろうか。」と指摘する。

本県の県民所得は204万円で全国47位、完全失業率は5.4%で全国一、就業率は50.8%で全国44位である。（「100の指標から見た沖縄県の姿」より）

つまり仕事をしていない人の率が他府県よりも高いのだ。競馬や競輪などの公営ギャンブルがない沖縄では、一攫千金を夢見てスロットがブームになった。スロッターは、県外では若い人が圧倒的に多い。でも沖縄のマシンヒッチャーはおじいおばあも多い。偶数月の15日（年金支給日）は、遊技場に通うお年寄りが多いと、あるタクシーの運転手が話していた。

遊技場だけではなく、過度の飲酒の習慣も、「浪費」につながっている。「飲酒運転」や「平均寿命の1位陥落」、「医療保健費の増加」に直結している。

多くの自治体が今、貧困問題に取り組んでいるが、比嘉さんが指摘するように「浪費」も沖縄県の大きな課題であるように思う。

## 5月12日（金）その17 甲殻類の脱皮時のような急激な成長！

9日（火）の所内検討会、大変お疲れ様でした。皆さんが入所して1か月以上積み上げてきたものを全員で確認することができました。私達も真剣に皆さんの論文を何度も読んで、いくつかの指摘をしました。もう少し考えて修正して、指導講師の方々の意見も聞いて、研究を深めていって欲しいと思います。これまでにないくらい学習指導要領や幼稚園の教育要領、中教審答申等を読んだでしょう？

教員としての成長は、経験年数に応じて少しずつ伸びていくだけではありません。甲殻類が脱皮したときにグンと体が大きくなるような、急激な成長の仕方もあるのです。私は、そのような成長の仕方を何度か体験しました。

生徒数 1,200 人のA中で、大変まずい学級経営をしたという話は、この前お話しました。A中勤務2年目も3年生の担任でした。「あのような学級経営は、二度とやりたくない。」という強い思いが私を支えました。私はまだまだ力量不足でしたが、歯を食いしばって頑張り、初年度よりはましな学級経営ができました。3年目は、青天の霹靂！なんと文部省指定の生徒指導研究校の研究主任をやってほしいと校長に言われました。・・・「えっ！」。

「こんなに生徒指導で苦労しているのに、なんで俺が？」と、正直、そう思いました。「冗談はよし子さん！」（笑）

でも校長は本気でした。・・・プラス思考で考えて、引き受けることにしました。「2年間研究主任を頑張れば、今よりも生徒指導の力が身につくかも知れない。」と、思ったからです。

私は、先輩方から「学習指導要領」や「生徒指導の手引き」をしっかりと読むように言われました。学習指導要領は意味がわかりにくく、何度も何度も読みました。県外の先進校のいろいろな実践を読んでみても、出発点は「学習指導要領」であり、「生徒指導の手引き」であることがわかりました。これがバックボーン（精神的支柱、背骨）なんだなと思いました。

当時のA中には、若いやる気のある職員が多く、みんな学校をよくしようと燃えていました。生徒指導上は、「大波小波」がありました。だんだん生徒の問題行動が少なくなり、学校がよくなっていきました。さらに教員と一緒に、「学校をよくしていこう！」と考える生徒達が増えていきました。離島の学校にも負けていた「地区陸上」で優勝争いを演じるようになったり、部活動の県大会で複数の部が優勝したりと、徐々に成果が出てきました。「凡事徹底」で、あたり前のことを徹底して実践すれば、学校は変わるということ、実感しました。

A中5年目は、希望して3年担任をさせてもらいました。A中で3度目の3年担任です。自分比で、初めて満足できる学級経営ができました。2年間の研究主任で学んだことを生かして学級経営に力を注ぎました。道徳、学活は「月案」を作成しました。さらに学級目標を達成するために生徒達には、毎学期「目標」を立てさせ、学期末には必ず反省をさせました。私自身も、「学級目標達成のための担任の具体的支援」を考え、学期が終わると生徒と共に反省をして、次の学期の方針を立てるというように、変貌していました。

皆さんにとっても、教育研究所での半年が、甲殻類が脱皮したときにグンと体が大きくなるような、そんな成長の仕方を体験して欲しいと思います。